

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウエルフェア		
事業所名	グループホーム大原苑		
所在地	福岡県小郡市大板井391-36 (電話) 0942-73-1218		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1 日	評価結果確定日	平成 26 年 1 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念にあるように、私達職員は利用者一人一人を大切に思い、温かい家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活出来るように、寄り添う介護を心掛けています。四季折々に桜・ポピー・コスモス・紅葉を見に外出し季節を感じて頂いています。日常生活では毎日塗り絵・パズル・体操・ゲームなどを通しリハビリに繋げ各々が楽しく張り合いのある生活ができるように支援しています。また隣接の保育園から園児達の元気な声が聞こえてきます。毎月の交流会では歌や踊りゲームなど一緒にします。運動会に招待されたり敬老会にも演技披露に来てくれます。園児との交流は利用者の心が癒され笑顔が見られる大切な時間です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 11 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設9年目で、小郡駅や市役所など公共施設が散在する住宅街に位置している。利用者の多くは地元の出身者で、職員も開設当時から勤務者も多く、利用者とも親しく笑顔で穏やかな日常生活を過ごしている。母体を同じくする近隣の保育園児との交流も深く、お互いに良い相乗作用をもたらしている。「一人ひとりを大切にし…向かいのおばあちゃん、おじいちゃんとなんか…」との理念も恙なく遂行している。事業所は利用者や家族、職員などの率直な意見や要望を聴いたり、勤務のシフト作りなどを工夫し、働きやすく離職者も少ない明るい環境を作っている。全職員は介護福祉士の資格を取得しており、開設から9年目にたって、サービスの質にマンネリ化を来してはいないかなど検証し、反省しつつ質の向上に努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や食堂に理念を掲示し、会議の前に全員で唱和している。職員は常にこの理念を念頭に置き、日々の業務に取り組み何か問題があれば、理念が実践出来ているかどうか検証、反省し次に生かすよう努力している。	事業所理念として「一人ひとりを大切に…」と独自の理念を作っている。利用者が地域社会の一員として楽しく生活できるように、管理者と職員は日常的に理念の共有と実践にむけて話し合い、月1回のミーティング時に理念を唱和し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域との繋がりを大切にしている。公園や公民館掃除に参加したり、地域の行事に招いてもらい、交流している。散歩の時には挨拶を交わし親交を深めている。	町内会に加入している。夏祭りのソーメン流し、隣接の保育園児と利用者と合同で誕生会や園児のお遊戯会に参加したりとお互い励みになり、相乗効果をもたらしている。事業所の行事開催時には地域住民にも声かけし、餅つき大会や避難訓練、地域の公民館を借りての敬老会等に家族や運営推進委員、地域の人々の参加がある。中学校の職場体験の受け入れも行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申込時や、電話相談など、入居に結びつかない方でも親身に話を聞き、出来る限りのアドバイスをしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や様々な問題点を報告し、意見交換をしている。また、地域の問題や、質問を受けることもあり、勉強になる。会議の内容は全職員に報告、共有し、サービス向上に努めている。	2ヶ月毎の運営推進会議では、利用者や職員の状況、活動、行事、評価への取り組みなど報告している。委員からは利用者のドライブ場所、インフルエンザの接種についての意見や防災訓練時には地域住民へ参加の呼びかけしている。また、サービスに対する内容がマンネリ化していないかなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課福祉課包括と平日頃より連絡を取り、問題点や疑問点はすぐに電話で相談し、指導を受けている。	行政とは日頃から連携を図っており、利用者の入所条件や行政の監査後の問題点や疑問などを相談したり、報告・連絡・電話など協力関係を築いており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。玄関に鈴を付け利用者の見守りや、付き添いを行っている。止むを得ず身体拘束をする場合は、家族の同意を得ているが、毎月の会議で必要性を確認している。研修も行っている。	日中は、居室・玄関は施錠しておらず、玄関にインターホンを設置している。月のミーティングで身体拘束について研修を行っている。マニュアル、テキスト・研修記録、報告書がある。1ユニットから2ユニットへ通じる中庭は傾斜があり、危険であるという理由で施錠しているが、職員と一緒に利用することもある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	資料や研修報告を回覧し、職員が周知徹底する。職員の言葉遣い、声掛け、態度が利用者には大きな影響を与える事を常に意識している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を元に、介護保険課や包括の職員より詳しく内容を教えてもらい、利用者が必要と感じられる時は検討する。年一回の家族会で必ずこの制度の説明している。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族には必要時に、また年1回の家族会議において成年後見制度について説明している。今回は全職員に行政関係者から権利擁護についての内部研修を行った。テキスト・パンフレット・研修記録がある。成年後見制度について、家族への情報提供としてパンフレットを玄関先に設置している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等には分かりやすく説明し、質問がしやすい雰囲気を作り、不安や疑問がないようにしている。介護保険の改定や、加算変更時は随時説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は必ず記録し、必ず職員で話し合い、納得してもらう様対応している。	家族代表が運営推進委員会に出席しており、意見や要望、苦情を述べる機会はある。家族の来訪時に意見を聴くように声かけに努めている。家族の意見としてボランティア参加の呼びかけや排泄後の処置の方法など、意見や要望を運営に反映している。年1回の家族会開催や意見箱を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一年に一回、代表者と職員の個人面談があり、様々な要望や思いを話している。管理者は常日頃より、職員の意見や相談が受けられる体制を作っていて、必要なことは代表者にも伝えている。	自己評価の項目を全職員に割り当て、その意見を管理者が集約し作成している。職員は日々の生活の場や月1回のミーティングで意見や提案、勤務に対する希望など言いやすい環境となっている。洗濯物干し場・各ユニット間に食事搬入時の降雨に備えて外屋根の設備や年末年始に手当てをつけるなど職員の要望や気づきなど運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談での要望や意見を検討し、働きやすい職場になるよう努めている。昇給やボーナス等は職員の実績が反映している。全職員の働きについて把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢や経験に関係なく応募があった方はなるべく面接をしている。職員の個性や能力を業務に役立てている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年は60才だが本人の希望に応じ再雇用している。また、事業所は勤務しやすいシフト体制などに力を注ぎ、離職者も少なく職員はいきいきと笑顔で働いている。全職員介護福祉士の資格を取得している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一度研修を行っている。また、月に一度、職員会議を行って、その中でも必ず利用者に対する意見を出し、話し合っている。毎日の申し送りでも、気が付いた事を意見合っている。	管理者は、利用者の尊重に特に力を注いでおり、月1回のミーティングで利用者に対する言葉づかいや態度などを話し合っている。年間教育に人権教育が計画されており、研修記録も整備され、未研修の職員は閲覧できるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容は全て代表者が目を通し、管理者と検討しながら、出来るだけ参加するようにしている。研修には順番に参加し、研修後は職員会議で報告し、日々の介護の中で気付いた事を言い合ったり、指導したりしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホームや、小規模多機能の管理者や、ケアマネジャーと情報交換をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し本人の気持ちを受け止めるように努め、表情など見落とさないようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に必ず話をする。意見や要望には耳を傾け、聞き入れている。面会時には、その後の経過や結果についても報告する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの情報を収集し、本人が不安にならないよう、家族にも協力してもらい必要に応じたサービスを行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかに安心して過ごせる様に、本人が何を求めているか等よく話しを聞き、サービスを行っています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、今の様子等話している。毎月苑のニュースを送ってお知らせしている。年に一〜二回、家族を含め、家族会や敬老会等を行なっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、関係を継続できるように支援している。友人の面会や、外出等も家族の協力を得ながら続けてもらっている。	職員は利用者の馴染みの人や場所について、アセスメントや利用者・家族、日々の生活の中で聴取し把握している。要望により友人へ電話をかけたたり、ハガキを出したり、ケアハウスに友人に会いに行くなど関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に共同作業をしたり、歌を唄ったりして、利用者同士が関わりを多く取れるようにしている。会話がさほどなくても同じ顔を毎日見て安心されるようだ。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移られた方の、お見舞いや面会に行ったりしている。また、家族から相談を受けたりすることもある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴を踏まえ、本人の希望や訴えに耳を傾け、出来る限り本人の意向に添った対応をしている。希望に添えない場合は、話し合い納得頂く様努めている。	一人ひとりの思いや意向の把握は、日々の暮らしの中で利用者に聞いたり、利用者の仕草や態度から意向を推し測り、家族の意向なども聴く等して、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から以前の生活の様子を伺ったり、皆さんの若かった頃の話等して頂き、どんな暮らしをされてきたか、日々のコミュニケーションの中で把握に努め、職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体で行う体操や歌などに参加が難しい方は、手をとって一緒に体操したり、そばで一緒に歌うなどして参加を促し、一人一人にあった方法で活動出来る様にしている。洗濯物たたみなどの家事手伝いも本人の力にあった方法で参加してもらっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を伺い、職員間の気付きや意見等を出し合い共有して、より良いケアに繋げていける様、介護計画を作成している。	介護計画目標とモニタリングは、ケアプランチェック表と状態チェック表に毎日記入し実施を確認している。状態が不安定な場合はその都度計画の見直しを行い、状態が安定している利用者の介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。担当者会議を開き、日頃の情報と職員の意見をもとに、利用者・家族の意向、医師の意見等を取り入れた個別的な計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のコミュニケーションの中での会話や態度から、本人の思いや変化に気づき記録に残している。記録や申し送り等で職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々職員会議や申し送り等で、一人一人のニーズについて話し合い、情報交換する事により、色々な支援方法を検討し取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の行事への参加や、保育園児との交流を行っている。区の行事はお祭りやそうめん流し、餅つきなど、保育園児が来苑して30分くらいの時間を共有する。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療、受診に付き添い、状態の説明や本人や家族の希望を明確に伝えられる様に援助している。	かかりつけ医や受診先は家族の希望を大切にしている。通院は家族同行を基本としているが、都合で付き添えない家族が多いので急病以外にも職員が同行することも多い。家族には通院前と通院後に電話で連絡を取り合っ情報共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化は報告相談し指示を受ける。受診が必要な時は病院に連絡を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に付き添い出来るだけ不安を取り除くように努める。病院へも面会に行き、退院に向けて病院の相談員と連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族の思いを確認している。出来る限り対応はしているが本人にとって何が一番良いかを家族主治医大原苑で話ししている。今の看取りは行っていない。	重度化や終末期に向けた方針を明文化しているが、事業所は終末期介護については医療対応が増えることを考慮し対応を模索中である。利用者の状態に応じて医師の意見をもとに利用者家族と話し合い、その都度事業所でできることを説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を行っており、人工呼吸法など何回も繰り返し訓練している。また利用者一人ひとりの病歴から、考え得る急変時の対応を看護師から指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	個人の身体状況を把握し、定期的に訓練をしている。地域住民や運営推進委員にも訓練への案内を出している。地域の消防団にも協力をお願いしている。	年2回のうち1回は消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方、心肺蘇生の訓練を行っている。また毎月、日中または夜間を想定し、利用者と共に避難場所へ移動する等の自主訓練を実施している。消防署へも通報し、職員の防災意識を高めている。非常用食料や飲料水はユニット毎に事業所内に備蓄されている。消防団員の参加があり、近隣へは事前にポスティングして知らせている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを優先し、理念を踏まえ、常に優しい気持ちで接する様心がけている。ミーティングでは気付いた点等出し合い意識確認をしている。	ミーティング後に研修を行い、プライバシーを損ねない対応に努めている。入浴や排せつ介助時は不要な露出を避け、利用者が秘密にしたいことには無理に介入しない、外部からの電話等の問い合わせには利用者のキーパーソンに連絡し不用意に情報を漏らすことがないように、対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の表情行動の変化を把握し、コミュニケーションを取りながら、個々の思いを聞き出せる様気をつけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはあるものの、利用者の体調気持ちを優先し過ごしてもらっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせて、一緒に考えながら服を選んでいる。外出行事の時は、前もって衣服選びを楽しみの一つにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方にも色々工夫し、季節の野菜、果物などをふんだんに取り入れ、献立の内容を公表し楽しんでもらっている。皮むきテーブル拭きも手伝ってもらい、昔を思い出しながら楽しんでもらっている。	利用者は自身のペースに合わせて自分で食事をとり、職員は目配りをし、介助を行いながら同じ食事を一緒に摂っている。献立は栄養バランスに配慮した献立表を用いて2ユニットが手分けして調理したものを分け合っている。季節感を取り入れ、利用者の嗜好を考慮し希望に添った食事を提供し、利用者が食事を楽しみにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は健康を維持し生活の中でも楽しみの一つでもあるので、摂取量水分量を記録し嚥下状態を見ながら、食べ易いように工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員付き添い歯磨きや義歯洗浄を行っている。定期的に義歯洗浄剤で洗浄も行っている。訪問歯科を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で誘導を行っている。表情や行動を見逃さずトイレ誘導も行っている。夜間も同様に声かけ誘導している。	日中は自室でのトイレ排泄を支援している。夜間もできるだけトイレ移動介助を行っている。排泄の定期誘導を一人ひとりにあわせて行っており、失敗が多かったり、落ち着きがない様子などによっては随時誘導を行い、失禁を減らすようにしている。おむつ使用や排泄状態に関しては職員全体で把握し、見直しや検討を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜など多く入れ水分摂取の声かけを行っている。排便の記録や申し送りも行い看護師や主治医に相談している。毎日の運動なども行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の好き嫌いを把握し職員間で連携しながら希望に添うようにしている。夏場はいつでもシャワー出きるようにしている。	入浴は通常週3回の午前中に実施しているが、利用者の状態に合わせて、希望に合わせてシャワー浴等を行っている。希望あれば毎日でも入浴は可能である。入浴拒否する利用者に対しては、朝・晩の声をかけや職員の交代などで声かけの工夫をしている。家族に協力してもらうこともあり、様々な工夫で入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調を見ながら、出来るだけ食堂等で活動的に過ごしてもらう。居室は温度管理をこまめに行い、冬場は希望に応じ、湯たんぽを入れたりする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の処方箋内容を職員間で把握し変更事も全員が周知するようにしている。症状の変化については速やかに看護師や主治医に相談をしている。また家族にも理解してもらっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日生き生きと生活できる様に、得意な事できる事をしてもらい笑顔が多く見られるように支援している。気分転換にパズル塗り絵読書歌などよくされている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て、苑の周りを散歩したり、隣接する保育園の園児との交流をしている。またドライブや外食を計画し季節を感じ、気分転換してもらえよう取り組んでいる。	天気や利用者の体調もあるが、気候の良い日には毎日散歩をしている。また、外食や買い物も気候が良い時期は、可能な限り月1回程度行っている。ドライブは季節ごとに各地の花見に出かけており、普段は中々行けない太宰府天満宮へ行くなどの取り組みを行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口で預かっているお金で、日用品や散髪代等の支払いをしている。自分の財布に硬貨を数枚入れて、バッグを持って常に持ち歩いている方もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話がしたい等の本人の希望がある時は、いつでも電話が出来る様支援している。年賀状やハガキを書いたり、月に一度は苑の便りをご家族に出し、近況をお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所は各居室にあり、いつでも利用出来る様になっている。また、皆の集まる食堂にはテレビやラジカセがあり、音楽はあつたもの流している。廊下には、行事の写真や利用者の写真を貼って見られている。	共有空間は掃除や整理整頓、温度管理がされており、リビングは明るく開放感がある。テレビの音や職員の声が気になることもなく、壁に外出や行事の時の写真、季節感のある作品が飾られて明るい環境で居心地良く過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に一人掛けや、長ソファを置き、いつでも自由に使用できるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者と家族との相談の上で、整理ダンスやソファ、テーブルやテレビ等を持ち込み、なじみの部屋として心地よく過ごせる様配慮している。	居室には寝具や家族の写真、身の回りの物が持ち込まれ、馴染みの家具を置いたり、カレンダーや壁時計が掛けられている。仏壇やテレビを持ち込まれている利用者もあり、利用者が気持ち良く安心して過ごせるように配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーで、トイレ、廊下、浴室等には手すりを付け、安全に移動出来る様にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂のよく見える場所に理念を貼り、毎日意識して実践するようにしています。ミーティング時には全員で声に出して唱和し再確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入しており、地域の清掃活動には職員が交代で参加しています。地域の行事も出来る限り利用者・職員で参加しています。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の希望があれば随時対応しています。電話での相談にも応じています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の取り組みを知ってもらうため、行事への参加も呼びかけています。会議では苑の状況報告をし、問題点は推進委員の意見も聞いてサービス向上につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課、地域包括支援センターと連携し、分からないことは細かく尋ねています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず見守りを強化して対応しています。身体拘束をしないケアに取り組んでいますが、やむを得ず必要となった場合は、家族と話し合い同意を得ています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の態度や言葉遣いは、特に気をつけてみえています。職員全員が同じ意識を持ち防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は資料を回覧して話し合い制度の理解に努めています。家族会では、成年後見制度の説明を行い、家族への理解や関心を深めて頂いています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族が納得されるまで説明をしています。加算の変更時も十分に説明し理解を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが、利用される人もないため、面会時に話をして意見要望を伺い対応しています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回、代表者と職員の個人面談を行っています。職員の意見や提案は、管理者と職員で話し合い代表者へ話しをするようにしています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談での意見を検討してもらい、働きやすい職場環境や条件の整備に努めてもらっています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢を理由に採用対象から排除することはありません。職員についても、差別なく平等に対応し、能力を十分に発揮できるように配慮しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権が尊重されるように、職員も自己啓発に取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は毎年交代で参加し、職員の知識やスキルの向上を図っています。内部研修も必要に応じてミーティング時に行っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域の勉強会を通して交流の場を作っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何を思っているのか何を訴えようとされているのか、いろいろな思いに耳を傾けながら、本人が安心できるような対応をしています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係作りと同様に、家族の声にも耳を傾け対応しています。家族との連携も密にし、必要に応じて連絡を取っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望を聞き取り、出来る限り希望に添える支援が出来るように対応しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側ではなく、共同生活する中で、出来ることは自分でして頂き、出来ない部分を援助していくような関係を築いていきます。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、その都度日々の様子を説明しています。面会が少ない家族にも、定期的に連絡をして状態を伝えています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば添えるように支援しています。家族の協力が必要となるため、家族との連絡もこまめに行っています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間となる食堂では、同じようなパールの利用者で同じテーブルについていただいています。利用者同士の相性もあり、臨機応変に席替えをして対応しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退苑された方や、他の施設にかわられた方の面会に行き、経過を見守っています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がその人らしく暮らせるよう、思いや希望に添って支援を行っています。意向の把握が困難な時は、関係者で話し合い、本人にとって何が良いかを検討し実践しています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族からの情報も聞きながら、これまでの生活歴を把握し、その延長線上にて暮らせるように支援しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしの流れに添って支援を行っています。居室で過ごされる時も常に目配りを行っています。その日の心身の状態を把握し対応できるように心がけています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を聞きながら、本人にとってどのようにしたら一番良いのかを考え、ケアプランに反映しています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録、職員間の会話で情報を共有し、日々の暮らしをきちんとふまえた上で、ケアプランの見直しを行っています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して暮らしていけるための、その人に合った支援の方法を一番に考えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そうめん流しや餅つきなど、地域で行われる行事に参加しています。保育園児との交流会も月に二回以上あります。また、保育園での地域交流会にも参加されています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に受診される方、訪問診療を希望される方と、本人や家族の希望に添うようにしています。精神科受診には職員も同行して対応しています。毎週、歯科の訪問診療もあります。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変はすぐに看護師に伝え相談しています。病院との連携も看護師を中心に行っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院のソーシャルワーカーと情報交換したり相談して、できるだけ早期に退院できるように努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、今後重度化した場合についての説明を行いサインを頂いています。主治医や家族と相談し、本人にとって一番良い選択ができるように支援しています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講座を受講し、定期的な訓練をして、急変や事故の場合即座に落ち着いて適切な対応が出来るようにしています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行い、避難経路や方法の確認をしています。火災避難マニュアル災害避難マニュアルを食堂の目につく場所に貼り、日頃より意識できるようにしています。火災訓練は近所の方にも参加を呼びかけています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの人生を尊重し否定しないように心掛けています。職員の態度や言葉使いも、目に付くことがあれば職員間で注意しています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉では、十分に意思表示できない利用者に対しても、表情や全身の反応を注意深く観察し本人の意志を汲み取っています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の意志を優先し過ごしていただいています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向を大切にしています。髪型や服装など好みに応じてそれぞれに対応しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど、出来ることはお手伝いしていただいています。職員も同じテーブルで食事しています。好きなものや食べたいものを聞いて献立に取り入れています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食ごとにチェックし記録しています。その人に合った食事形態で提供できるように刻んだりトロミをつけています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいなどの声掛け誘導を行っています。自分で歯磨きが困難な方は介助しています。義歯は每晚入れ歯洗浄剤で洗浄しています。ほとんどの方が訪問歯科を受診されています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がある方は訴えがあればその都度、ない方も時間を見計らいトイレ誘導しています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には野菜・水分摂取の声掛けや廊下歩行など運動の声かけを行っています。排便は必ずチェックし、主治医にも相談しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	月水金の午前中と曜日や時間は決まっています。その中で一人ひとりの希望に添えるように順番など考慮し入浴していただいています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣や体調に合わせて休息していただいています。昼夜逆転される方には声かけし負担にならない程度の離床を呼びかけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴り、情報の共有を随時図っています。服薬の内容が変わったときは、全職員が把握できるように記録し、服薬の支援と症状の変化を確認しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野を活かした役割を持ってもらい、自信と達成感を感じられるように支援しています。また、散歩や集団でのゲームを楽しみ気分転換を図っています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など出来るだけ本人の希望に添えるように支援しています。職員での対応が困難な場合は家族に協力してもらっています。季節毎に花見やドライブなどの行事を企画しています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が困難な方が多く、所持されている方はわずかです。所持されていない方も、希望があればいつでも自由に使えるようにしています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話の使用は出来るようにしています。年賀状や暑中見舞いなども、本人の直筆をいれて家族や知人に出すように支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は中庭に面しており、明るく開放感があり季節の移り変わりを、肌で感じる事が出来る。温度、湿度、テレビの音等にも気を配り快適な空間作りを心がけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや座る場所などは、気兼ねなくゆっくりと過ごしていただけるように相性や個人の性格を考えて配置しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団や日用品を置き、居心地のよい空間作りをしています。希望によりテレビを置かれている方もいます。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであらゆる場所に手すりを設置しています。安全に自立した生活が送れるように、個人の身体機能や力を考慮しそれぞれにあった支援をしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない